

アンゴラ共和国
ベンゲラ州国道 100 号線主要橋梁改修計画
予備調査報告書

平成 17 年 10 月

(2005 年)

独立行政法人 国際協力機構

無償資金協力部

序 文

日本国政府は、アンゴラ共和国政府の要請に基づき、同国のベンゲラ州国道 100 号線主要橋梁改修計画にかかる予備調査を行うことを決定し、独立行政法人国際協力機構がこれら調査を実施しました。

当機構は、平成 17 年 8 月 14 日から 9 月 6 日まで田中顕士郎（JICA 無償資金協力部業務第 1 グループ運輸交通・電力チーム）を総括として予備調査団を現地に派遣しました。この報告書が、今後予定されている基本設計調査の実施、その他関係者の参考として活用されれば幸いです。

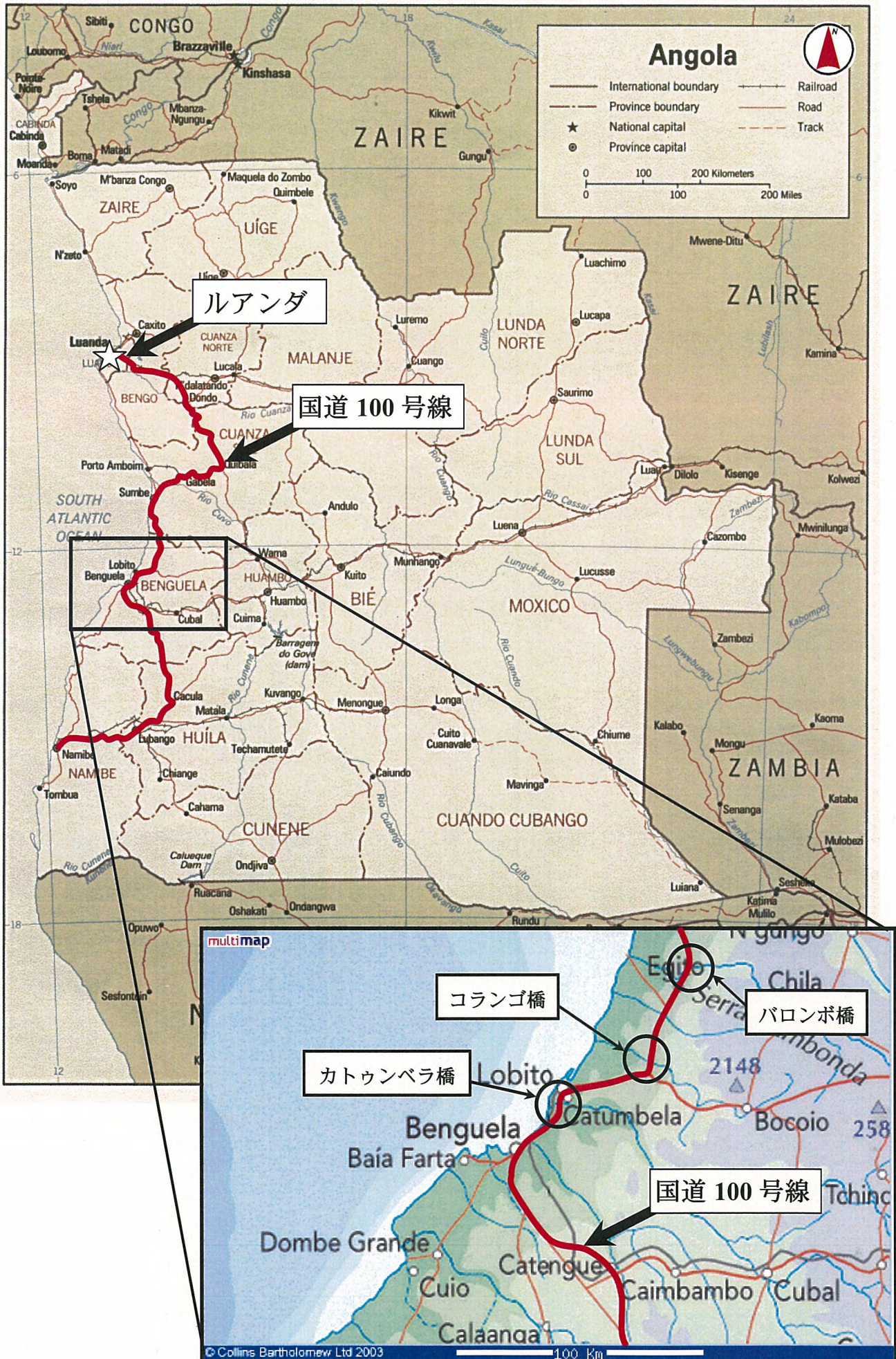
終わりに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 17 年 10 月

独立行政法人国際協力機構

無償資金協力部長

中川 和夫



1. カトゥンベラ橋



鉄道橋より望む。100年前に建設された鋼トラス道路橋とその手前の農業用水管橋。



道路橋より望む。ブラジル業者 ORDEBRECHT によるトラスの組み立て作業中の水道橋。



同橋の上流側のベンゲラ側をロビト側から望む。水道橋基礎工事と丘の上の建物は警察の監視棟。



ベンゲラ側橋詰めからベンゲラ方向を望む。片側交互交通のため生じる車両の待行列。



ロビト側鉄道橋上。地雷残置の可能性があるため、状況が曖昧な区域では現場警備警官の先導で現地視察を実施。

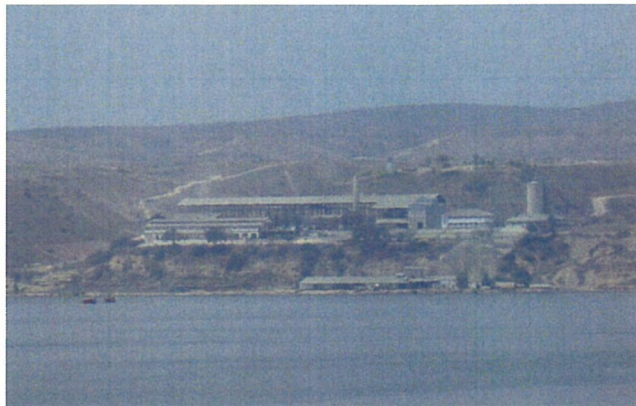


ロビト側よりベンゲラ側を望む。現橋と農業用水管橋の間のプッシュに地雷残置の可能性あり。

2. ロビトーベンゲラ間道路



ホテルの屋上より望む。ベンゲラ市の中心部官庁街。



ロビトの砂洲から望む。生産能力、品質は不明であるが本プロジェクトで使用が可能と思われる、ロビト湾対岸のセメント工場。



ベンゲラ市直近北側のカバコ川に架かる橋梁を上流側より望む。自国の資金により建設された2005年に供用開始した橋長172mの合成桁橋。



ロビト側橋詰めより望むカバコ橋の橋面。路面には凹凸が見られる。



国道100号線カトゥンベラ橋よりベンゲラ側にあるベンゲラ鉄道の架道橋。4車線の幅員は確保されているかは不明。



鉄道橋より望むカトゥンベラ川の下流側。遠望させる橋梁は人道橋であるとのこと。